令和８年 11 月９日

石川県能登地域における保全計画に基づく活動状況等の評価
（令和８年度第２回世界農業遺産等専門家会議）

１　評価・総括

貴地域では、第３期保全計画期間中に発生した大規模な災害により、目標の達成に多大な影響が生じたものと認められる。こうした困難な状況の中でも、農業遺産の保全・継承に向けた取組が続けられていることは評価される。一方で、保全計画における目標の多くが未達成となっていることについては、災害による影響や地域の実情を十分に踏まえ、その要因を整理するとともに、復旧・復興の状況に応じた対応を検討することが望まれる。

引き続き、地域の復旧・復興と両立した保全活動が進められることを期待する。

２　専門家会議による助言事項

更なる保全・活用に向け、以下の助言事項を参考として今後の保全活動に取り組むことが望ましい。

（１）　自然災害からの復興を中心に据えた保全計画の検討が重要であり、従来型の目標設定にこだわらず、被災後のデータ等も活用しながら、祭礼や棚田等の現状と課題を可視化し、復興に向けた具体的な取組を検討されたい。

（２）　地域コミュニティの維持、再建及び発展を図る観点から、被災後に集落ごとに話し合う場を設ける取組や、祭りお助け隊に代表される関係人口の確保・拡大に向けた取組を引き続き推進することが望まれる。

（３）　観光や産業振興に関する取組と、食料及び生計の保障をはじめとする地域の非産業的な暮らしに関する取組については、それぞれの目的や役割を明確にした上で分けて整理し、保全計画に位置付けることが望まれる。

（４）　災害時においても持続的な暮らしを支える分散型の水インフラの構築や集落ごとの自給的食料生産体制など、能登地域が有する強みやレジリエンスについて整理・評価し、保全計画に位置付けることが望まれる。

（５）　トキの放鳥を契機として、同じく世界農業遺産認定地域である佐渡地域と連携を深め、日本の世界農業遺産認定地域を牽引していくことが期待される。

（以上）